

ZONE A 子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ

主旨

これまで Zone A では、「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」というテーマのもと、「専門職の学び合うコミュニティ」として学校が共有ビジョンのもとで発展していくための、教師の協働の在り方について議論を積み重ね、その重要性を様々な角度から確認してきました。前回 2 月の実践研究福井ラウンドテーブル 2017Spring Sessions では、「支え合うコミュニティに向けて」というサブテーマのもと、幼児教育、初等教育、特別支援教育の視座から「支え合うコミュニティ」の中で特に若い世代の学びと成長をいかに支え促すのかを議論しました。

この議論を受けて、今回の実践研究福井ラウンドテーブル 2017Summer Sessions では、若い世代だけでなく、新たに学校に異動あるいは着任する新たな同僚の学校間文化移行とそこでの文化学習をいかに支え促すのか、その具体的な実践と指針について考える「新しい世代を支える」をサブテーマに設定し、参会者の皆様とともに議論を進め深めていきます。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア (ポスターセッション)
福井県内外の幼・小・中・高・特別支援学校

シンポジウム

子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ：新しい世代を支える

Session II
(14:20-15:50)

シンポジスト 長野県伊那市立伊那小学校・教諭 佐々木 英明 氏
同志社中学校・教頭 沼田 和也 氏
コーディネーター 福井大学教職大学院・准教授 木村 優 氏

フォーラム

Session III
(16:00-17:40)

Session II シンポジウムでの議論を受けて、参会者の皆様とともに協働チームで問いと議論を深めていきます。

ZONE B1 教員研修体系の新たな構築と今後の展望「変わる教員研修」 ：教職大学院と教員研修センターの有機的連携

主旨

教員の資質・能力の向上を目指す制度改革については、文部科学省も平成27年12月の中教審の答申において、教育委員会、学校、大学等が目標を共有してお互い連携しながら、次期学習指導要領等に向けて教員に求められる力を効果的に育成できるよう、教育委員会と大学等との協議の場の設置や教員に求められる能力を明確化する教員育成指標、それらを踏まえた研修計画の策定などを実施することとし、教員研修自体の在り方を、「アクティブ・ラーニング」の視点で見直すことなども提言しています。本学教職大学院と福井県教育委員会も、本年度よりこの提言の主旨に賛同し、これまでの教員研修を見直し、新たな体系の構築に協働で取り掛かり始めたところです。

こうした教職大学院と自治体の連携の動きは、福井県だけでなく国内各地でも始まっていますが、新しい試みであるだけに、教員の資質・能力の向上を目指してより効果的な研修体系が構築できるよう、試行錯誤しながら、有機的な連携を模索しているというのが現状です。

本シンポジウムでは、連携を始めた国内各地の教職大学院と自治体の関係者から新しい教員研修体系構築の現状を報告していただき、その構築の在り方を検討し合いながら、今後の展望を探っていきたいと考えております。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井県教育総合研究所

シンポジウム
教職大学院と教員研修センターの有機的連携

Session II
(14:20-15:50)

シンポジスト	北海道立教育研究所企画・研修部長	中澤 美明 氏
	やまぐち総合教育支援センター	竹本 芳朗 氏
	山口大学教職大学院	前原 隆志 氏
	福井県教育総合研究所研修センター	鈴木 利英 氏
	福井県立三国高等学校・校長	斉川 清一 氏
スーパーバイザー	文部科学省教職員課課長	佐藤 光次郎 氏
コーディネーター	福井大学教職大学院教授	倉見 昇一 氏

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
「これからの教員研修の在り方を探る」
Session IIシンポジウムでの議論を受けて、参会者の皆様とともに協働チームで問いと議論を深めていきます。

ZONE B2 (a) これからの学部段階の教員養成を考える ：実践を聴き、夢を語る

教員養成をめぐる制度の見直しへの提起が重ねられ、とりわけ教職免許法の改正にともなうカリキュラムの改変が求められてきています。しかし、長い蓄積の中で培われてきた組織の中で、新しい課題への取り組みを進めていくことには大きな困難がともないます。それぞれの実践と経験を活かした、当事者としての知恵が問われてきていると思います。

主旨 こうした問題意識を背景とし、昨年6月に開催されたラウンドテーブルから、学部の教員養成に携わる当事者が、互いの取り組みを聴き合い、語り合う新しいセッションが立ち上がりました。大学における教員養成をとどのように支え、また今後に向けて発展させていくのか。さまざまな背景と専門を持ち、学部での教員養成に携わっている当事者同士、現実の中での互いの取り組みを聴き合い、語り合う場を創っていきたいと思います。

前回同様今回も、少人数で多様なメンバーが大学を超えて教員養成の取り組みを聴き合うことを中心に据えたいと思います。それぞれの取り組み、そこでの工夫、あるいは課題や悩みも含めて共有し学び合いながら、これからの学部における教員養成への夢を、当事者としてふくらませていくことができればと思います。互いの現実とそこでの取り組みを聴き合うことを通して、また夢を語ることを通して、さまざまなキーワードかがセッションの中で浮かび上がってくる。それをさらに次回のセッションにつないでいきたいと思います。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井県内外の教員養成大学

シンポジウム
小グループで実践交流を行ないます

Session II
(14:20-15:50)

東京家政大学・富山大学・一宮研伸大学（中部大）・静岡大学・長崎大学・
神奈川大学・玉川学園大学・東北芸術工科大学・福井大学

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
Session2 同様、小グループ形式での実践交流を行ないます。

ZONE B2 (b) 学部学生のクロス・セッション 授業/活動
: 語ろう・聴こう・出会い直そう

主旨 大学における教員養成をとどのように支え、また今後に向けて発展させていくのか。ZoneB2では、教員養成に携わる大学教員がこれからの学部における教員養成への夢を当事者としてふくらませていくことためには、教員養成における学びの主体者である学生たちの思いや課題を知る必要があります。
こうした問題意識を背景に、前回2月に開催されたラウンドテーブルから、学生たちが「自分たちは、授業や活動を通して、何を学んでいるのか」を語り合い、聴き合うクロス・セッションが立ち上がりました。自分たちの取り組みをことばにし、また、他大学の学生の語りを聴くことを通して、授業や活動の中に潜在していた意味ある課題が浮かび上がってくることを期待しています。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井県内外の教員養成大学

Session II
(14:20-15:50)

シンポジウム
小グループ形式で実践交流を行ないます
東京家政大学・富山大学・一宮研伸大学（中部大）・長崎大学・東北芸術工科大学・福井大学

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
Session2 同様、小グループ形式での実践交流を行ないます。

ZONE C 持続可能なコミュニティを培う コミュニティの持続的な発展のために異質との出会いをコーディネートする

主旨 これまで Zone C では、各地のコミュニティで長期にわたる実践の歩みとその展開を、その持続可能性をめぐる課題から検討し続けてきました。今回は、「何がコミュニティの持続的な発展を支えているのか」と題して、スタッフが入れ替わる中で、絶えず発展をし続けている取り組みに焦点を当てて、それらの組織マネジメントやコミュニケーション構造について事例を元に考えを深めました。

しかし、コミュニティの持続的な発展は、構成員の自助努力だけで可能となるのでしょうか。コミュニティ外のメンバーとも接点を持ちながら、自覚的に自身のコミュニティの価値や取り組みを問い直していくことも不可欠ではないでしょうか。

今回の Zone C では、「異質との出会い」をテーマに、コミュニティの持続的な発展のために、コミュニティ外のメンバーとの出会いをいかにコーディネートし、活かしていくかについて考えていきたいと思えます。実際にコミュニティ外の視点でコミュニティの発展に尽力されている方と、その方を自身のコミュニティに迎えて、共にその発展に取り組もうとされている方の双方の方の取り組みを共有し、世代や立場を超えた多様なメンバーで考えを深めていきたいと思えます。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井市・越前市の公民館、ふくい市民国際交流協会、探求ネットワーク他

Session II
(14:20-15:50)

シンポジウム

シンポジスト 福井市殿下地区地域おこし協力隊 高橋 要 氏
福井市殿下地区青年グループ d.o.d
(福井市殿下公民館) 堂下 未来 氏
コーディネーター 福井大学教職大学院講師 富永 良史 氏
早稲田大学教授 村田 晶子 氏

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
Session II シンポジウムでの話題提供を受けて、小グループでの実践交流を行います。

ZONE D 子どもと教師の学びを支えるために 授業研究・保育研究をいかに組織するか

大きな社会の変革が起きつつある中で、教育現場はさまざまな転換を迫られています。今回の学習指導要領改訂の動きの中では、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」といったキーワードが並び、これらを実現するためには「地域と連携」した「チームとしての学校」で「生涯にわたって学び続ける」教師が求められてもいます。こうした中で、授業研究・保育研究は決定的に重要になるといえ、校内・園内で、専門職として協働して学び合う教師集団をいかに組織していくかが問われています。

主旨

こうした背景のもと、これまで ZONE D では、子どもと教師の学びを支えるための授業研究について考えてきました。地域や学校の状況が異なる中で、その組織の在り方は多様であり、長い時間をかけて取り組んでいかざるを得ないものと思います。そこで今回も引き続き、学習指導要領改訂を見据えて、子どもと教師の学びを支えるために授業研究・保育研究をいかに組織していったらいいのか、考えていきます。

「シンポジウム」では、幅広い校種の先生方に登壇いただき、これから求められる学びの在り方や教師コミュニティの在り方等のいくつかの論点を取り上げて、それぞれが取り組んできたことやその中で掴んできたことをざっくばらんに語り合う形で進めます。

ここで出てきたことを踏まえて「フォーラム」では、参加者がそれぞれの現場で何ができるかを考えていくために、大まかに校種や領域で部屋を分かれます。それぞれの分科会で話題提供者から具体的な実践を簡単に紹介いただいた上で、小グループで話し合い、深めていきたいと思えます。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井県内外の幼・小・中・高・特別支援学校

シンポジウム

これからの授業研究・保育研究をいかに組織するのか～次期学習指導要領を見据えて

Session II
(14:20-15:50)

シンポジスト 福井県教育委員会・指導主事 舘 寿子 氏
福井県小浜市立口名田小学校・教諭 正木 啓敬 氏
福井県美浜町立美浜中学校・教諭 八木 康文 氏
コーディネーター 福井大学教職大学院・准教授 岸野 麻衣 氏

フォーラム

多様な授業研究・保育研究から学び合う

Session III
(16:00-17:40)

A 保幼小の実践に学び合う

竹仲美智子氏・吉本典子氏（福井県美浜町立あおなみ保育園・せせらぎ保育園・みずうみ保育園）
上原博光氏（長野県長野市立南部小学校）

B 中高の実践に学び合う

猪 晃一郎氏（長崎県波佐見町立波佐見中学校）
片桐哲也氏（福井県立足羽高等学校）

C 特別支援教育の実践に学び合う

松村千里氏（大野市立児童デイサービスセンター／平谷子ども発達クリニック）

D 国境を越えて学び合う

フィリピン・オーストラリア・コロンビア・ブータン等からの教員留学生

